

2025年度

事業計画書

公益財団法人都市活力研究所

はじめに

2024年度の日本経済は、コロナ禍からの回復を経て引き続き堅調に推移し、日経平均株価も高値を更新するなど「デフレからの脱却」を実現した一年となった。

当法人の拠点のある梅田地区においてもうめきた2期が開業し、また大阪・関西万博までいよいよ一年を切り機運も高まってきたところである。

そのようななか当法人では、2020年度から経済産業省の補助事業として取り組んできた関西イノベーションイニシアティブが一定の成果を残しつつ補助事業としては最終年度を迎えたほか、10年以上にわたって当法人が中心となり支え続け2024年は過去最高の集客となったHackOsakaの運営主体から撤退を決めるなど、法人設立から15年目をむかえ一つの節目となった年であった。

2025年度は縮小する財源にあわせて事業や運営体制の見直しを行うとともに、時代の要請にあわせた新たな事業も立ち上げ、次の10年に向けた礎となる一年としていく計画である。

【公益事業1】産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

1. ライフサイエンス分野における産業の振興

ライフサイエンス分野において、大学等での有望な技術や研究テーマである創薬シーズの育成支援及び創薬分野へのコンピュータの利用促進を図るための情報共有機会の提供、並びに技術経営プログラムの提供を通じて、産業の振興を図る。

(1) 創薬シーズの育成

A. 創薬シーズ相談会 (相談、助言)

大学で創薬シーズを保有する研究者からの相談に対し、産業界のニーズに精通した製薬企業の研究企画部門の担当者が、研究開発の方向性について助言を行う。

B. 新モダリティコンソーシアム (相談、助言)

大学やバイオベンチャーの創薬シーズとバイオベンチャー、IT企業などが保有する各種の創薬技術をマッチングする産官学のコンソーシアムを運営し、創薬を加速する。現在、日本医療研究開発機構 (AMED) の公募に申請中。

(2) 創薬分野におけるコンピュータ利用の促進

A. インシリコ創薬支援事業 (講座、セミナー、育成)

(一社) ライフインテリジェンスコンソーシアムと協力し、創薬分野におけるスーパーコンピュータの利用 (インシリコ創薬) を推進する。

(3) ライフサイエンス産業人材の育成

A. バイオ講座 (講座、セミナー、育成)

ライフサイエンス分野の領域を対象に、起業を視野に入れた知識とスキルを学ぶ技術経営講座を、神戸大学と共同主催し、即戦力となる実務リーダーの育成を図る。今年度は8日間16講座を提供する。

また、デザイン思考を用いて技術シーズをもとにイノベーションを設計するプロセスを学ぶグループワーク講座を3日間3講座で開催する。

B. 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

(講座、セミナー、育成)

ライフサイエンスに携わる関西の研究者にスポットを当て、バイオロジ分野とテクノロジー分野の最先端の研究について各1題ずつ紹介するセミナーを年4回実施する。

C. バイオメディカル研究会 (講座、セミナー、育成)

健康・医療のデータサイエンスに関わる先端研究を紹介し、参加者が講師と討論するセミナーを開催している。主催は日本バイオインフォマティクス学会であり当法人は共催として事務局を務め年2回開催する。

D. バイオコミュニティ関西共催セミナー (講座、セミナー、育成)

バイオコミュニティ関西(Biock)は内閣府の「バイオエコノミー戦略」に基づき人材育成にも注力している。4月には内閣府認定の全国のバイオコミュニティと連携し国内外の専門家を招き「プラネタリーヘルス」をテーマに大阪梅田で国際シンポジウムを開催する。

E. 次世代モダリティ研究所との共催セミナー（講座、セミナー、育成）

その他事業として事務局運営を支援する「モダリティ研究所」との共催により、次世代医薬品に関するセミナーを実施する。

2. 産学融合によるイノベーションエコシステムの形成

大学と産業界が一体となり大学発シーズ・スタートアップや人材の育成を図るための事業「関西イノベーションイニシアティブ」を推進し、産業の振興を図る。

（1）大学と産業界をつなぐイノベーター人材育成プログラムの組成（講座、セミナー、育成）

CXO人材と技術シーズのマッチングや、大学発スタートアップと大企業人材のマッチング等について、関係機関や関連プログラムとの連携等を通じて人材の発掘と育成を行う他、事業会社のオープンイノベーションマインドの醸成に向けた取組も進めていく。

（2）大学発シーズ・スタートアップと産業界のマッチングによる産学共創の推進（相談、助言）

産業界とアカデミアとのギャップを解消するため、大学の産連本部や研究科、KSAC（関西スタートアップアカデミアコアリション）とも共働し、シーズとニーズのマッチング機会を創出する。具体的には、技術シーズや大学発スタートアップを紹介するマッチングイベントなどの実施などを行う。

（3）大学発シーズ・スタートアップの表彰（表彰・コンクール）

KSII事業では社会課題解決と持続的成長を両立する大学発スタートアップを「KSIIゼブラ」として認定している。これまで16社を認定（2023年度：4社、2024年度：12社）しており、引き続きKSIIゼブラ創出と候補探索を継続する。

KSIIゼブラ創出等に向けた大学発スタートアップの活性化、裾野拡大等のため、大阪商工会議所等と連携して「U-START UP KANSAI」を実施する。

（4）産学融合拠点のあり方の研究（調査、資料収集）

大学発の技術シーズを容易に閲覧できるデータベースを運用するなど情報の集約と発信を行う。また、2023年度から作成を開始した「関西エリア大学発スタートアップ集」の整備、拡大を継続していく。

【公益事業2】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

1. 新しいまちづくり等のあり方に関する調査研究

新しいまちづくりのあり方について産学官で議論する場をつくり、今後の新しい方向性の提言等により、都市の活性化を図る。

(1) Ullまちづくり研究会 (調査、資料収集)

大阪都市部の活性化に向けて、これからのまちづくりのあり方を研究する研究会を設置し調査研究を行う。テーマは次の通りである。

● サステナブルなまちづくりに関する調査研究

「(仮称) 都心フリンジ部のまちづくりに関する調査研究」

24年度の「サステナブルなまちづくりに関する調査研究」の議論を踏まえて、関係者と議論のうえ新たな検討会を上期中に立ち上げる。グラングリーン大阪など大阪都心部の開発が節目を迎える中、十三地区など都心周縁部(フリンジ部)のまちづくりについて、産学官から、中長期的なあり方を考えるうえで鍵を握るメンバーを集め、情報・意見交換・議論の場を設ける。そのなかで、課題を抽出し、解決の方向性を見出す。(21年度から24年度に実施した「サステナブルなまちづくり研究会」を発展的解消のうえ新規検討会を立ち上げ)

(2) まちづくりに関するセミナーの開催 (講座、セミナー、育成)

● Ullまちづくりフォーラム

まちづくり分野の新たな施策・制度や動向を紹介するセミナー等を、今年度は2回前後の開催を予定し、大阪・関西の都市が抱える課題や解決の方向性について、様々な視点から議論を深める。

● UllまちづくりDX講座

まちづくり関係の参加者に対し、スマートシティや街づくりツールに活用できる実践型のDXセミナーを実施することで「まちづくり×DX」について考える機会の提供とコミュニティの形成を目指す。受講者からの評価も高く23年度、24年度に続いて25年度も継続実施する。

2. 鉄道沿線まちづくりに関する調査研究

大都市近郊部の高齢化や人口減少等の課題に対応するため、鉄道の駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目指して、鉄道沿線価値の維持・向上に向けた調査研究を行い、提言につなげる。

(1) 都心近接エリアにおける鉄道沿線まちづくりに関する研究 (調査、資料収集)

都心近接エリアの活性化に向けて、十三地区で今後整備される住宅、鉄道等と関連付けて「十三クロス」の取組を継続して進める。また、沿線自治体と連携した自動運転バス検討など沿線活性化、コミュニティ形成、まちづくりを推進するための取組や調査研究等を行う。

3. エリアマネジメントに関する調査研究

地域における良好な環境や価値を維持・向上させるための地権者を主体とした取り組みについて、梅田地区を例にとり調査研究を行う。

(1) エリアマネジメントに関する調査・研究

(調査、資料収集) (講座、セミナー、育成)

大阪エリアマネジメント活性化会議や全国エリアマネジメントネットワークなどと連携し、主に都心部におけるエリアマネジメントのあり方の調査・研究とそれを担う人材の育成を行う。

(2) エリアMICEの推進に関する調査・研究

(調査、資料収集) (講座、セミナー、育成)

2018年度より地域が一体となって国際会議などの受入れを行うことを目指す「梅田エリア MICE誘致・観光推進研究会」を運営してきた。今年度は、これまでの研究成果を公表するシンポジウム等を開催する。

【その他事業】産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

1. 創薬関連プロジェクトの推進支援

創薬の非競争領域における基盤技術の普及や促進のための活動を支援する。

(1) (一社)日本マイクロバイオームコンソーシアムの運営支援

ヒト微生物叢を産業応用した機能性食品や高機能化粧品、創薬開発をめざし健常人の微生物叢データベースの構築をめざす。日本医療研究開発機構から受託した創薬研究開発プロジェクト（6年計画）の5年目を迎え潰瘍性大腸炎と癌の領域において有用な成果の創出を図る。

(2) バイオコミュニティ関西（BiocK）の運営支援

バイオエコノミー社会の実現のために内閣府認定のグローバルバイオコミュニティとして全国の認定バイオコミュニティと連携し、バイオ技術の社会実装を目的として活動している。スタートアップ支援や環境・食・エネルギーなどの分科会活動を通して社会課題の解決をめざす。

(3) 次世代モダリティ研究所の運営支援

抗体、核酸、細胞など次世代モダリティを用いた革新的医薬品の研究と開発促進を目的としてCBI学会のCBI研究機構の元に設立された同研究所の事務局として運営を支援する。

2. エリアマネジメント活動の支援

公益事業2において調査・研究したまちづくりのあり方を実践に移すため、主に都心部におけるエリアマネジメント団体等の諸活動を支援する。

(1) 梅田地区における案内所業務への支援

都心部における案内サービスのあり方を検討するとともに案内所業務への支援を行う。

(2) エリアマネジメント活性化会議の事務局支援

大阪市内におけるエリアマネジメント活動の活性化のために、大阪市と市内のエリアマネジメント11団体により構成する会議の共同事務局を運営する。

今年度は関西万博の来場者にまちを回遊していただくためのスタンプラリーなどを実施する。

3. (公社)都市住宅学会関西支部の運営支援

大都市近郊部の高齢化や人口減少等の課題に対応するため、まちづくり全般についての実践的研究等を行っている同法人の事務局を受託し活動の支援を行う。

4. 大学技術シーズを活用したゼブラエコシステムの形成

社会課題解決と持続的成長を両立する大学発スタートアップである「KSIIゼブラ企業」を大阪・関西から連続的に輩出することを目指し、公益事業1で認定したKSIIゼブラ企業をはじめとする有望な大学発スタートアップを集中的・総合的に支援する取り組みを行う。

5. 産学連携による実証実験プロジェクトの支援

一般社団法人関西イノベーションセンター（MUIC）と連携し、技術を活用した社会課題解決および社会実装を推進するため、大学発シーズ・スタートアップと大企業等の実証実験プロジェクトの組成および実行を支援する。

以 上